

# 恋愛世界の解剖： 犠牲のクレシダ？

名古屋大学・国際言語文化研究科  
鈴木 繁夫 （教授）

# 現実的なクレシダ⇔虚構的トロイラス

- 「恥ずかしがりやの乙女」の役割を演じる
  - 「男性は、ものが手に入れないと、実際以上にものを評価する。」 (1.2.301)

## ○実効主義existential

- 他人によって値打ちが評価される
- 人間の気ままな意思と意見 (2.2.53, 62, 66)

## ×本質主義essential

- その人本来に値打ちがあるから評価される

# 現実的なクレシダ⇒仮面

(1) 恥ずかしがりやで恋を夢見る乙女

(2) 現実を斜向いに眺め、積極的に生きるしたたかな女

(3) 色気を発散して男性の心をつかむ奔放な女



• どれが仮面、どれが本物の顔なのか？

# 女性：その場の人間関係の中で生きる

恥ずかしがりやで恋を夢  
見る乙女

現実を斜向いに  
眺め、積極的に  
生きるしたたか  
な女

色気を発散して  
男性の心をつか  
む奔放な女

一貫性がない→女性は人間関係の中で自らを規定する

(1)他人からの評価により自らを自己尊重を勝ち取る

(2)その評価により自分の役割を演じる

# 女性：男性との関係の中で生きる

「女性は自分の性質に合致するように自分を見て、選択をするのではなく、男性が女性を規定するように、しているのです。」

「人は女として生まれるというより女になるのです。…女を生み出すのは文化そのものなのです。」（シモン・ド・ボヴォワール『第二の性』）



# クレシダの素顔と仮面

恥ずかしがりやで恋を夢見る乙女

現実を斜向いに眺め、積極的に生きるしたたかな女

色気を発散して男性の心をつかむ奔放な女

男性からの評価

その場の状況

女性は自己同一性を確立できない犠牲者 (:\_:)

# 演技する自己同一性：分裂する不安

I have a kind of self resides with you,  
But an unkind self that itself will leave  
To be another's fool. (3.2.146-8)

⇒I have a kind of self who resides with you, But that self is an unkind self who will leave me to be your toy.

- A. トロイラスに心が奪われてしまう。
- B. 奪われると、演技する自分がなくなってしまう。
- C. 演技できない自分は、トロイラスのいうがままになってしまう。
- D. 困った、どうしよう……**ただの女になってしまう**

# 女性の性質：過ちを犯しやすい

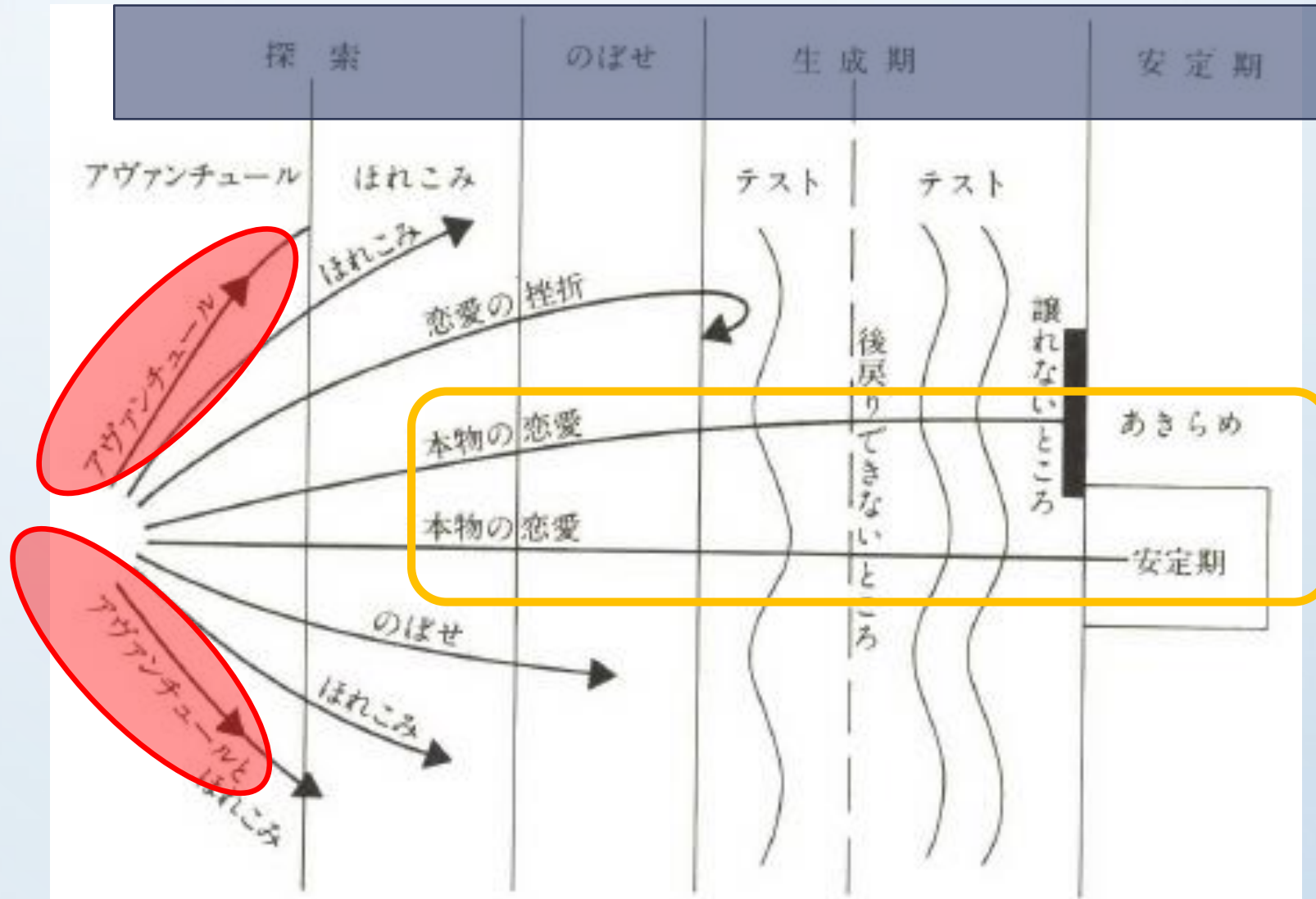
「さよなら、トロイラス。でもあなたを私の眼の一方は眺めているの。だけどもう一方の眼は、私の心と手を組み、[ディオメーデースを]見ているの。あー、ダメな性ね。こういう過ちは私達にあるものなのね。眼が過ちを犯して心があらぬ方を向く。過ちに引かれる先は過ちに決まってるは。ということは結論はこうね。眼に支配された心は、卑劣でいっぱい。」

(5.2.106-111)

# 演技する自己同一性：分裂する不安 へ身を委ねる

- A. トロイラスに心が惹かれている。
- B. 惹かれているが、**ディオメーデース**に心が奪われてしまう。
- C. 奪われると、二股かけることになり、トロイラスを裏切ることになる。
- D. 自分の心に従うことは女の性質だから、その本来の顔を演じよう。
- E. しかし仮面をつけて演技できない自分は、**ディオメーデース**のいうがままになってしまう。
- F. 困った、どうしよう……でも、まあいいわ。生きていかれるのだから。

# 恋愛の4段階・6パターン



# 《エロティックなアヴァンチュール》の性質

1. 我が身を賭けてとことんまで行ったりせず、相手と溶け合い変わろうともしない。
2. 期限つきで、いつかは終わってしまうことを初めから知っている。（アルベルローニ『恋愛論』）

# 《エロティックなアヴァンチュール》の特徴

1. 感情面がきわめて強い。
2. 計画を練らないから、プロセスもストップしてしまう。
3. 未来図が描けず、それ以上進まない。

# 女性の性質：過ちを犯しやすい

「さよなら、トロイラス。でもあなたを私の眼の一方は眺めているの。だけどもう一方の眼は、私の心と手を組み、[ディオメーデースを]見ているの。あー、ダメな性ね。こういう過ちは私達にあるものなのね。眼が過ちを犯して心があらぬ方を向く。過ちに引かれる先は過ちに決まっているは。ということは結論はこうね。眼に支配された心は、卑劣でいっぱい。」 (5.2.106-111)

➡ 困った、どうしよう……でも、まあいいわ。生きていかれるのだから。

# 現実的なクレシダ

(1)分裂への不安

→社会学的には典型的な女性

(2)分裂の安定保持

→思想的にはマキャベリズム



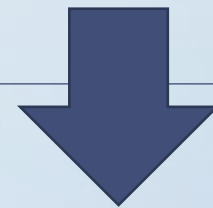
# 解釈の方法（1）：外在的アプローチ

文学テキストは、それが生み出された時代・世界の一部であるということを前提とながらも、

人間自身や人間社会に普遍的な構造を用いて、テキストの内容を説明する。

# 解釈の方法（２）：ジェンダー批評

フェミニズム	ジェンダー
男性と女性は本質的に異なる	性別は社会・文化によって形成されるもの
女性に焦点をあてる	両性を連続的に捉える
女性の立場から読解	読解は文化規範により決定



現代の文化規範とは？

# 文化規範(1)： モラトリアム人間

- 自己を、そして相手との関係を完全に決定づけない



# 文化規範(2)： ジゾイド人間 (山あらしジレンマ)

## • ポケット関係

- 「必要なときには使えるが、不必要なときにはしまっておけるポケットのような人間関係」
- 「二人の絆を固めたいが、それでいて絆がゆるいものにしておこうとする、相反する感情がある

- Bauman, *Liquid Love*

# 文化規範(3)： 消費と低欲望人間

- 消費社会をうごかす、変化の激しい欲望
- 三低
  1. リスクを取らない
  2. 信頼を追求しない
  3. 公平への鈍感

# 文化規範(3)： ？確立すべき課題

1. 時間的展望の確立
2. 自己に対する確信
3. 性的役割の分化の学習
4. 指導性と服従性の学習
5. イデオロギーの信奉

# 現代の恋愛観からのクレシダ

- アンビバレンス（相克感情）
  - 激しい情熱への不参加と憧憬

激しい情熱	不参加	憧憬
虚構的トロイラス	狂気	共鳴
現実的クレシダ	共鳴	嫌悪

←→

# 現代の恋愛観：クレシダの恋への共鳴

「その点なら私も負けないわ。」



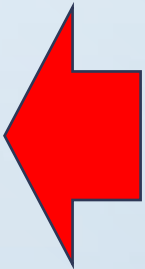
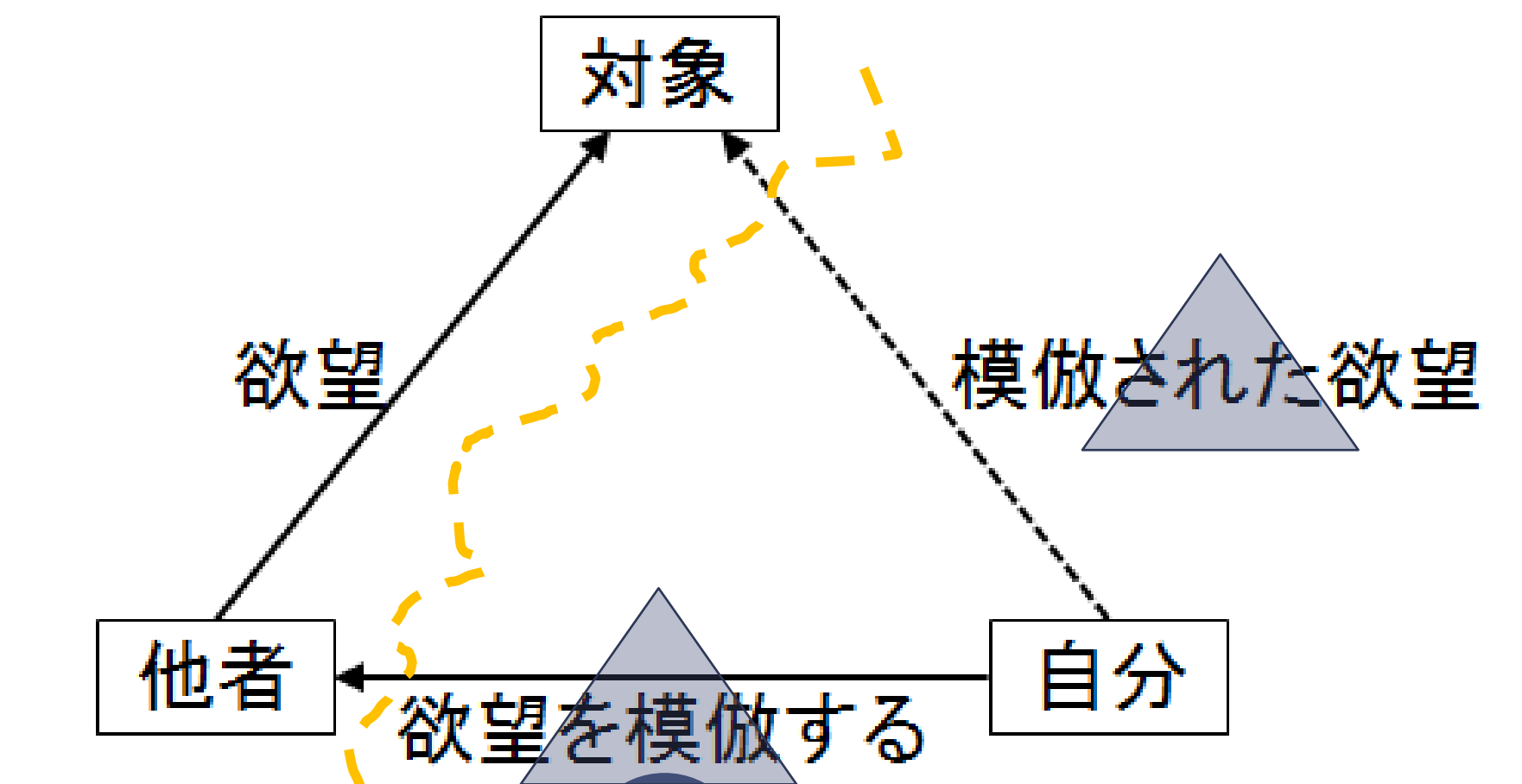
クレシダはトロイラスの愛を信じている。  
しかしそのような愛に価値を置いていない。  
愛がいつか裏切（られ）るのを気づいている。

# 現代の恋愛観： 対等の能力・知性への賞賛

1. ある目的を達成するための手段として**模倣**する
2. 貞淑な女性あるいは男性の欲望を満たす女性として**承認**される

# 遊びとしての恋愛の特徴

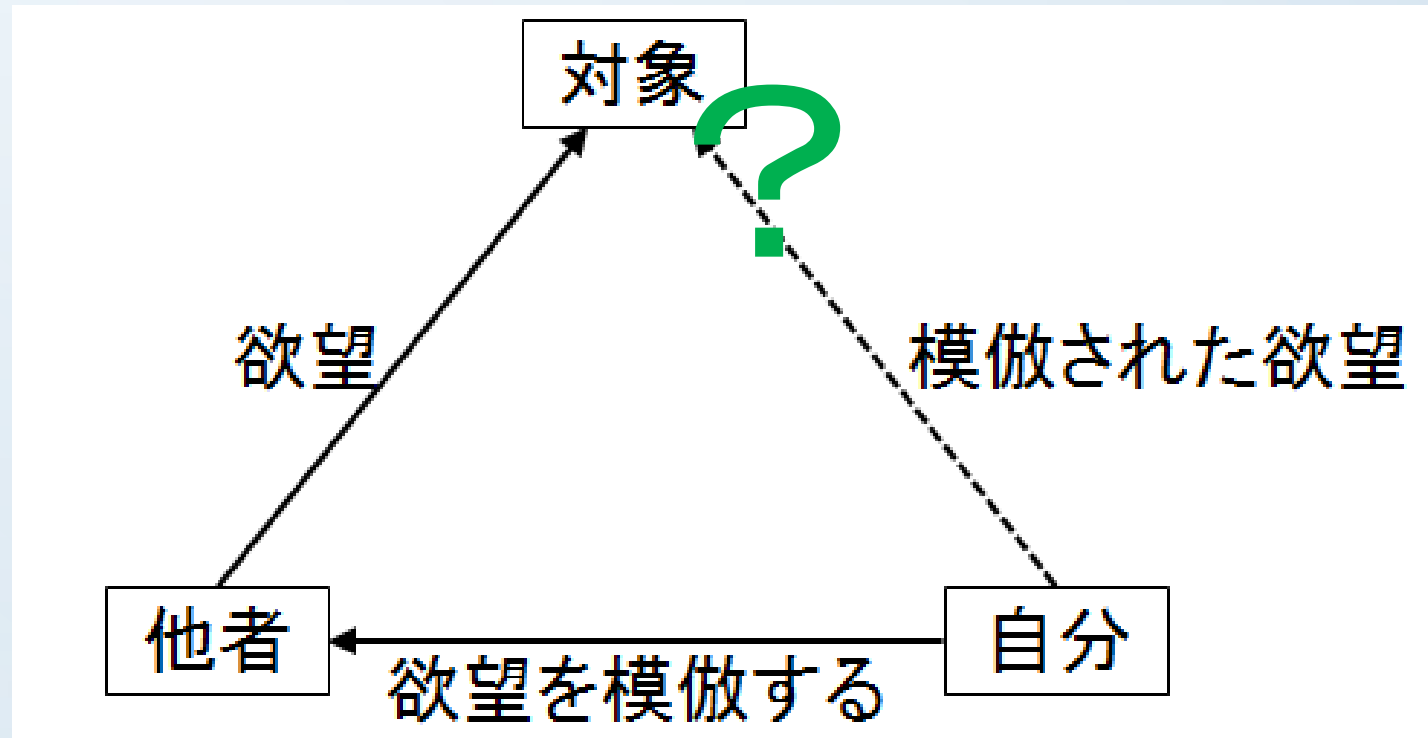
1. 友達以上恋人未満
2. 性交渉の非特別化
3. 恋愛感情が何かわからない
4. 他にもいい人がいる
5. 浮気が起こる
6. さりげない演出



低欲望人間は参加しない

# 激しい情熱への憧憬から見たクレシダ： 嫌悪

- 「これがあの人か。これはあの人なんかじゃない。これはクレシダで、クレシダではない。」(5.2.137-8, 146)



# 虚構的トロイラス⇔現実的なクレシダ

- 「どう言い寄られても断固はねつける貞潔」(1.1.97)
- 「あの人の眼、髪、頬、歩き方、声、手…それに包まれば、白鳥のひなの毛もざらざらだ」(1.1.54-58)
- 「あの人のベッドはインドだ。そこにいるあの人は真珠だ。」(1.1.100)



対象の誇大化

# 虚構的トロイラス⇔現実的なクレシダ

「牧は目が回る。期待につられて振り回される。  
想像するだけでも恋の味わいにはうっとりとなって、  
しびれてしまう。欲しくてたまらない口が〈愛〉のあの  
誰も知る神酒を味わったなら、その味はどんなものだろう。」

(3.2.16-20)



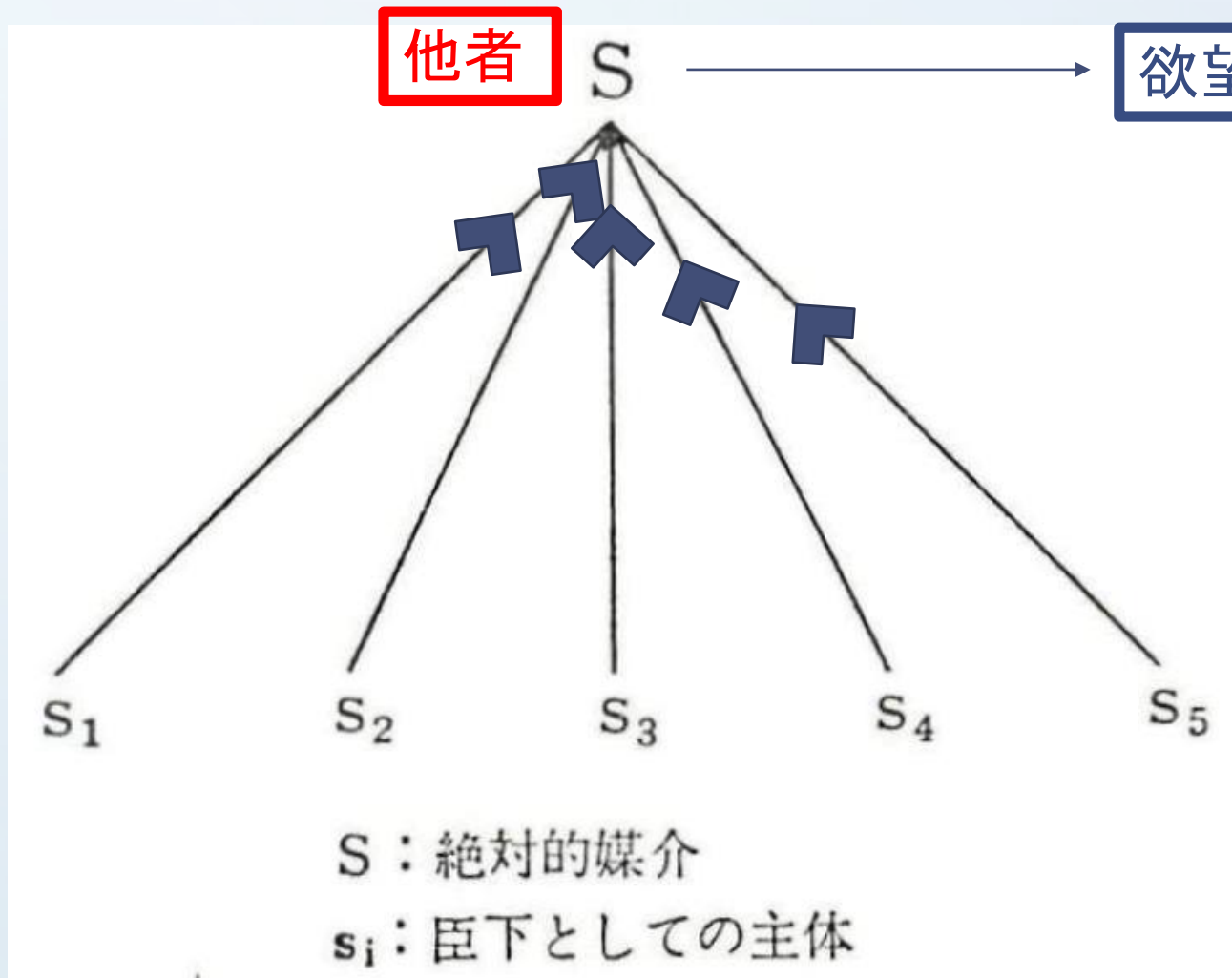
対象の誇大化

# 高欲望人間トロイラス

## 欲望の特質

1. それに対象とする記号表現を超過する
2. 他に優越し回避できない
3. 法（正統・適切・秩序）に対しても優越する

# 欲望の本質：中世・近代



- 対象が一定



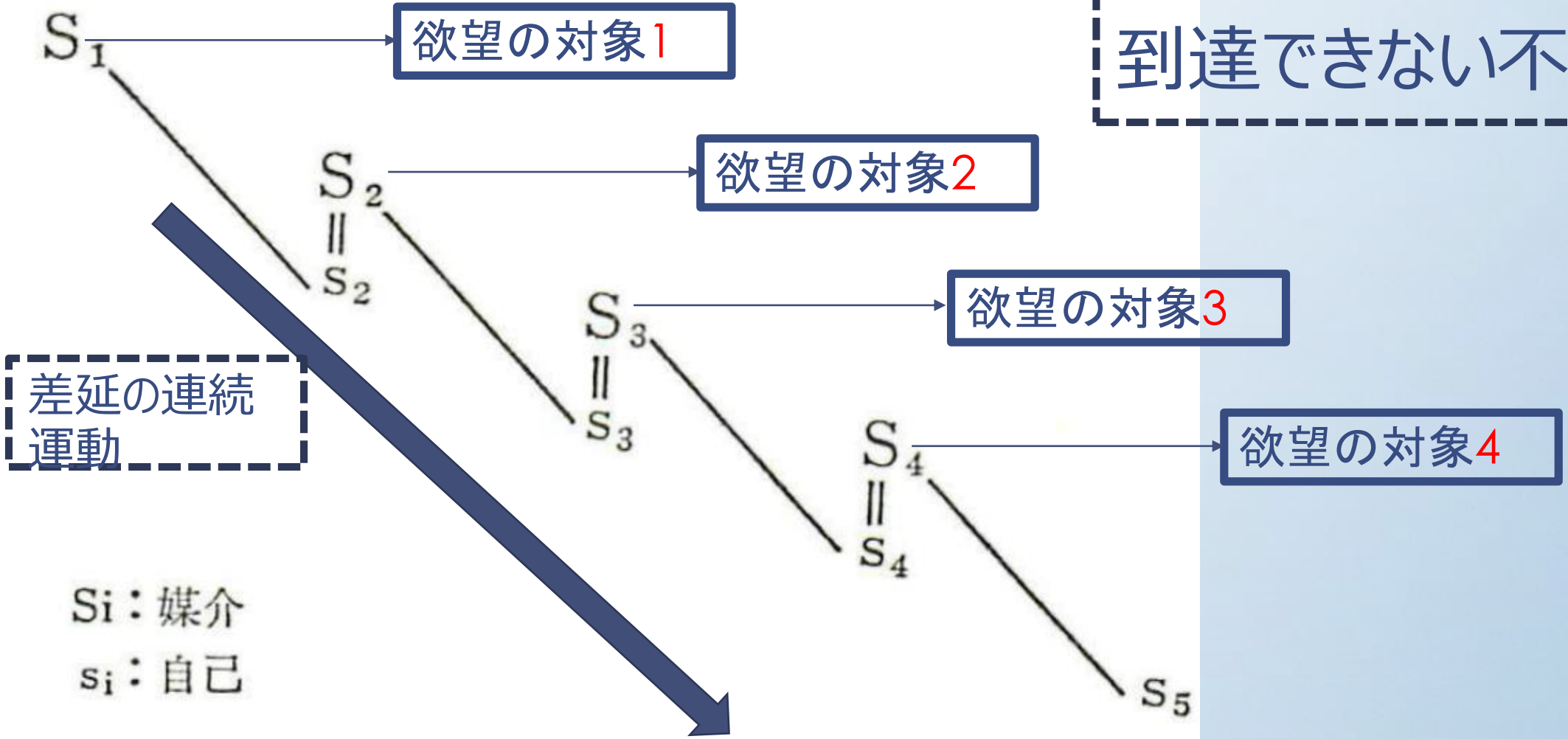
ラファエロ

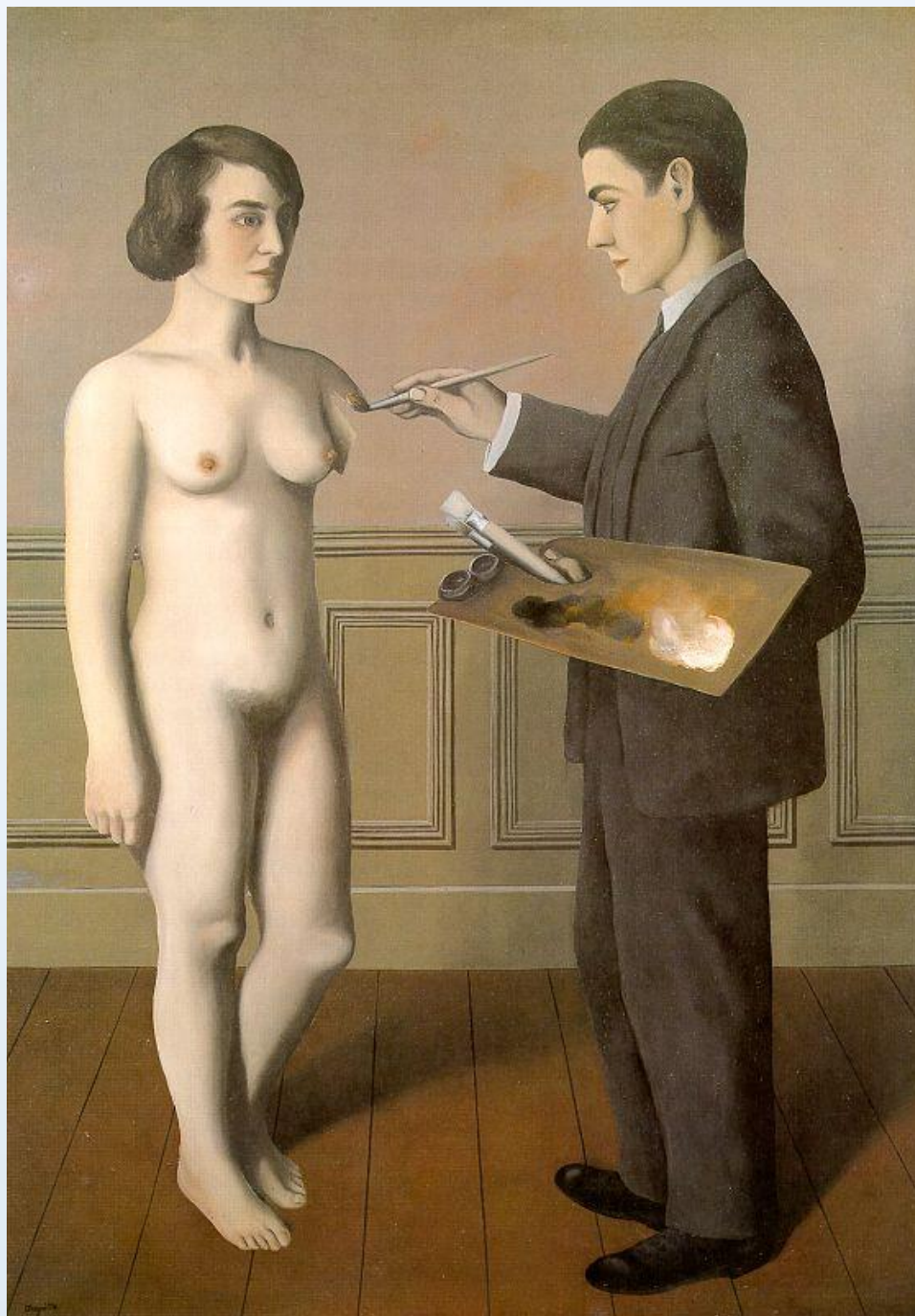
「聖母子と聖ヨハネ、教皇レオ10世」

(1512年?)

# 欲望の本質：近現代

究極の対象：  
到達できない不在





## <果てしない物語>metaverse の世界に生きる

ルネ・マグリット「不可能を試みる」  
1928年

# 現実的なクレシダ⇔虚構的トロイラス

激しい情熱	不参加	憧憬
虚構的トロイラス	狂気	共鳴
現実的クレシダ	共鳴	嫌悪

# 誠実のトロイラス、欺瞞のクレシダ

- 真に誠実であるなら
  - 欺瞞と知りつつ、クレシダをそのまま受け入れる
- 真に欺瞞であるなら
  - 欲望に取り憑かれ、疲れてしまう

- これ以降のスライドは授業とは関係ありません

# 演技する自己同一性：分裂の安定保持

I have a kind of self resides with you,  
But an unkind self that itself will leave  
To be another's fool. (3.2.146-8)

(2) I have a kind of self who resides with you, but also an unkind self that are already determined to leave Troilus and become another man's toy.

- A. トロイラスに都合の良いことに、自分の心の一部が奪われてしまっている。
- B. しかし、自分の心はすべて奪われたのではない。
- C. 演技する自分は、トロイラスのいうがままにならない。
- D. トロイラスとは別な男性と付き合う道を探っておこう。フ、フ、フ・・・

# 現実的なクレシダ⇒仮面

(1)分裂への不安→社会的には典型的な女性

(2)分裂の安定保持→思想的にはマキャベリズム



どちらが正しい解釈か？

# 現代の女性観： 文化規範が作る女性像

- 「これがあの人か。これはあの人なんかじゃない。  
これはクレシダで、クレシダではない。」(5.2.137-8, 146)

# 愚直のトロイラス、仮現のクレシダ

- 前提 2：プラトニック愛

- 「ロマンチック・ラブは、西洋人の心のなかの唯一最大のエネルギー体系です。私たち西洋の文化においては、ロマンチック・ラブは今や宗教に代わるものとして、男性も女性もそのなかに意味を求め、超越を求め、完全と歓喜とを求める場となっています。」

- Robert A. Johnson *We: Understanding the Psychology of Romantic Love*

# 恋愛に保証がある？

トロイラス：

「これであなた[クレシダ]もたしかかな  
保証を手にした、叔父上の誓約と、  
私の誠意で。」(3幕2場)

# <恋愛の結末 = 結婚> の破綻

恋愛というプロセスを楽しむ

(1) 自己を、そして相手との関係を完全に決定づけない

(2) 互いに傷つけ合わない距離



コミュニケーション努力が希少ですむ

二人の小空間での自足

# 別れの理由：性格の不一致

- 性格一致の契機

(1) 感覚

(2) 話

(3) 趣味

(4) 価値観

(5) 対等

- 性格一致の前提

- 恋愛関係は自己完結した小宇宙

- コミュニケーション力が最小で済む

- 性格は変えられない

# SVR理論

- Stimulus : 外的刺激属性（魅力）に惹かれる
- Value : 価値観の類似が重要
- Role : 相手の期待に適合した役割を果たす

# SVR理論から見た別れの理由

- 恋愛：Vが破綻
- 結婚：Rが破綻
- 現代の結婚：Rが破綻



- 結婚においても恋愛関係が継続する

# 社会背景：再帰的近代Giddens

- **再帰性**：自分自身の行為を振り返りその文脈や意味を知ること
- **再帰性の活動**：「社会の実際の営みが、まさしくその営みに関して新たに得た情報によってつねに吟味、改善され、その結果、その営み自体の特性を本質的に変えていくという事実に見いだすことができる」
- **近代**：慣習の修正が人間生活のすべての側面に徹底して及んでいく。
  - 「制度」「真理」「信念体系（イデオロギー）」「常識」
- **近代の不安**：既存の伝統や制度への不安
  - 「われわれが方向感覚を失って生きる世界は、再帰的に適用された知識によって徹底的に形成されているが、同時にそうした知識の構成要素がいずれも修正を受けないとは決して断言できない世界なのである」

# 浪費としての恋愛 Bataille

- 資産の豊かさ
  - 選択できる自由→選択失敗による影響からの自由
  - 恋愛関係を浪費することに輝き

# ＜恋愛の結末 = 結婚＞の破綻

恋愛というプロセスを楽しむ社会的承認

ただし欧米では愛は高ボルテージ

「恋愛の破局は、恐らく精神病の領域で限界状況と呼ばれてきたものに近い。すなわち、「主体が自分の償いようのないところまで破壊しゆくものとして体験する状況」である。このイメージの由来はダハウで起こったことにある。」（ロラン・バルト）



ブロンズイーノ

「ラウラ・バッテイフェッラの肖像」

1547-53年頃



ブロンズイーノ  
「愛の勝利」  
(1540-1545)年頃

